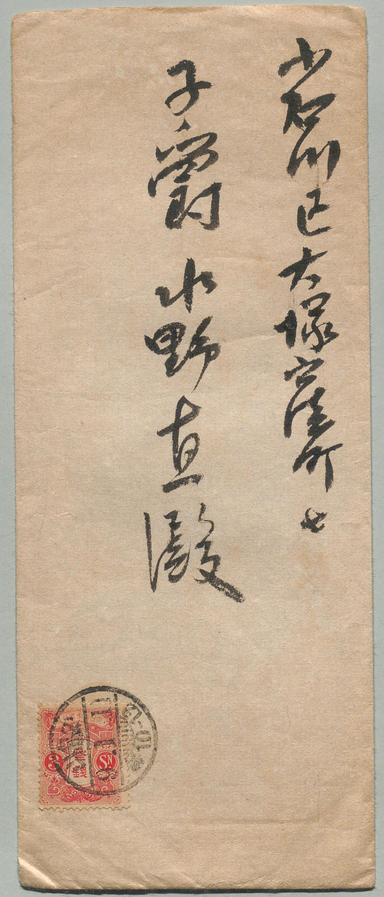
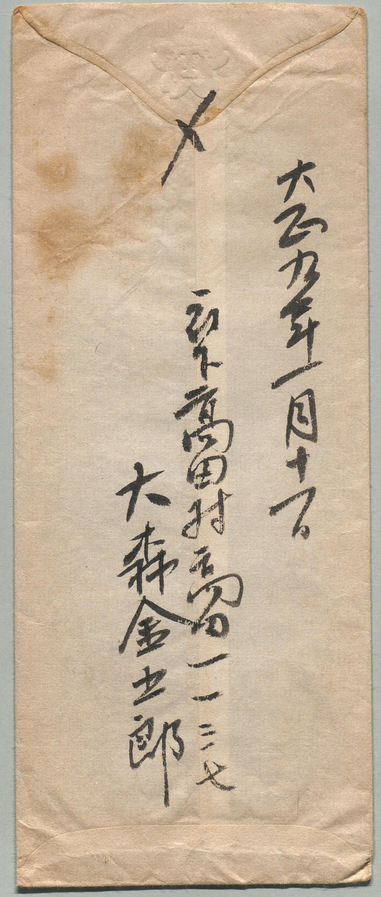


国立国会図書館　水野直関係文書 134-3



大正九年一月十日

[illegible]高田村高田一一三七

大森金五郎

国立国会図書館　水野直関係文書 134-3

国立国会図書館　水野直関係文書 134-3

高等科学生は何も加盛
の行違ひ有しと見えて
重鎮方々出でざるもの多
き中に（京都道の方）是が為
道場は大ふさびしき様子
ゑん
又北條院長は本月当
新年宴会に召されず
りしに（宮中の御祭会之為）
二十年は心得ず自分より来内せるゝ
事編着席し等の場所也
しでおまえて同意せる
やゝ付当けし
又学習院と大学との関係
は余り具合悪しくおもわ
い故 即ち昨日の東大の
教授等を決定せるに
学習院は遂に 他の高等学
校格に取扱ふるは出
来ざるまゝまわり 高等師
範学校卒業生が大学に
入学する事有し 九等
と同格におもわりの国の
ゆへ 是等の院長に於て
早くより後りをつけ置く
べき筈のことと 今日に至
りては最早ゆるくれとおもわ

してさしまきし　候をせ［以下判読困難］

やゝ付すべし
文学部と大学と文関係
は会員且会合し　小生ハ
以て　自分はかねて東大の
教授会も法定せる事は
学習院は遂に他の高等学
校格に取扱ふ事は出
来ざるのみならず　高等師
範学校卒業生が大学に
入学する事なし　九等
と同格にはこれありの事にて
みし　是等の話も種々
ありたりを付け置て
べき筈のこと　尚今日に至
りては最早おくれたると来
り候場合なるを免れず
とゝ存候
以上御参考迄申上候　敬具

大正九年一月十日　大木拝

水野子爵
御許